



12月20日(日) 13:00

坂本住民大会

会報「さけび」 第3号 12月11日/09

荒瀬ダムの撤去を求める会 会長 本田 進

元坂本村議会議員と町民有志の会代表 木村征男

投稿先 Fax0965-45-3325 saifukuji@sakamoto-catv.jp

会報 叫び

落ち鮎の望郷ささぎるダム腐水 八代 中山頼行
ダム無くばつげめ突き抜け荒瀬音 (今泉で力又ー教室)

荒瀬ダム 撤去支援の可能性 国交相「白地から検討中」

第1面中央→
『熊本日新聞』
←第4面上段

前原誠司国土交通相は、町を撤去する場合の国の支援に「()」という()の意向交換会で、民主党の松野信夫参院議員が「川辺川ダム建設中止に伴う球磨川流域対策の一つとして、国が財政、技術面で支援する案を国交相ら政務三役と協力が良いかどうか、内部で議論している」とも語った。

前原氏は、全国のダム事業について妥当性の判断基準などを策定するため設けた「有識者会議」では川辺川ダムを検証対象としない考えも示した。理由については「地元知事が同ダムの白紙撤回を求め、ダムに頼らない洪水対策を流域自治体と検討している」と説明。ただ、来夏に有識者会議で固まる基準を、球磨川流域整備に用いる可能性はあるとした。

これについて前原氏は「事業者(県)が撤去するが原則。現状は国の仕組みや国交予算を使つて撤去できない」と従来の見解を繰り返す一方、「事業者に任せるのが良いかどうか、内部で議論している」とも語った。

荒瀬ダム撤去求め 県関係議員が連盟

13日設立、約50人参加へ

存廃問題が論議され、流城市町村のほかに八代市坂本町の熊本市などの市議も荒瀬ダムの撤去を呼び掛けた。県関係議員連盟の設立総会が13日、八代市で6時半から、同市西松開かれる。県関係の国會議員や県議、市町村議員50人程度が加入する見込み。「一面参照」11月に八代市議有志14人で設立した市議連3月に更新期限を迎える

同ダム水利権について勉強会も開く。八代市議連盟の田中茂代表は「水利権更新が間近に迫っている現状で、住民代表である議員がより多く結果を出すことで、撤去を求める民意を具に示していきたい」と話している。(野田一春)



立看板2題

書き損じはがきを集めて 知事に叫びを届けます

書き損じはがきを寄付していただき、それを郵便局で新品と交換し、知事宛の文章を印刷します。文章の趣旨に賛同くださる方に、住所氏名を署名していただき投函する。という手順です。(未使用はがきも大歓迎) 届け先 デイリーショップ本田 合志野和嶋 荒瀬山下宅 下鎌瀬元村宅 西鎌瀬光専寺 鮎帰西福寺等々坂本集会チラシ問合せ先へ 12月10日現在 219枚拝受

荒瀬ダムは「不知火海」のギロチンだ!

荒瀬ダムの撤去を求める・叫びを届ける坂本住民大会 12月20日(日)午後1時 坂本公民館

幼い命をも奪ってきた荒瀬ダム

光永了円氏の訴え 11月20日八代集会



こんなに海に近く、家屋の密集した地域にあるダムは数少ないと言われています。だからこそ、海や地域に甚大な被害を与えるのです。 わたしは荒瀬ダムの上流4kmの地点に住み、

寺の住職であり保育園のお世話もしています。昭和四十九年の洪水でした、水位を増していた球磨川はその牙を一気に現し、目の前の家が二軒倒壊し流されました。木造の保育園の園舎と運動場は冠水、手の施しようが無い被害を受けました。大水の恐ろしさを実感した最初の体験でした。昭和五十二年に一、五m嵩上げて新築しましたが、その一カ月後の大水で床上浸水 大きな被害を再度受けました。その後も大雨の度に怯える生活を送っています。

この五十年間に、六名の子どもがダム湖に転落し亡くなっています。この他に放水で一名、堆積した土砂除去の作業員さんが二名亡くなっておられます。子どもを亡くされたNさんは、「このダムが無くならん限り、死んでも死に切れん。」と涙ながら熊本県に訴えられました。

球磨川は、ダムのおかげで五十年間その水位を上げ続けてきました。ダムが存続すれば、生命と財産に繰り返しの大きな被害をもたらします。早急に荒瀬ダムは撤去してください。

訴える木本球磨川漁協副組合長 概要は会報No.1に掲載

